

# 解剖学実習

科目責任者 徳田信子  
学年・学期 2学年・1学期

一  
学  
年

## I. 前 文

人体解剖学実習及び脳実習では、誰一人教科書通りの構造をもたない「ヒト」を解剖することにより、科学的探究、専門知識に基づいた問題解決能力、情報・科学技術を活かす能力を身に着ける。それだけではなく、自らの意思で献体して下さった社会の一員である「故人」を解剖する機会を経験することにより、プロフェッショナリズム、総合的に患者・生活者を見る姿勢を学ぶことができる。また、チームワークを通じて生涯にわたって学ぶ姿勢を学ぶことが可能である（医学教育モデル・コア・カリキュラム）。

定められた「献体解剖倫理指針」を理解し、順守することが必須である。

### 献体解剖倫理の原則

#### ①遺体（故人）への礼意

「死体の解剖を行い、又はその全部若しくは一部を保存する者は、死体の取扱に当たっては、特に礼意を失わないように注意しなければならない。」（死体解剖保存法、第20条）献体解剖は本人の遺志だけでなく、家族がいる場合にはその承諾によって初めて可能になる。遺体に対する家族の心情を考えれば、解剖に当たって礼意を失うことは決して許されない。

#### ②医学における守秘義務

「私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえ患者の死後においても尊重する。」（世界医師会、ジュネーブ宣言、医師の誓い、第7項）献体解剖は医学の一部として行われる。献体解剖において経験・見聞したことは献体者の個人的な秘密に属するものであり、正当な理由なく第三者に伝達・拡散してはならない。

### 献体解剖の行動規範

#### ①礼意を有する行動・態度とは

献体解剖においては、人体の学習に対する誠実さ、遺体の尊厳に対する謙虚さ、献体解剖を許される厚意への感謝が強く求められる。

#### ②解剖実習室内での行動規範

適切に解剖を行い、十分に学習をするように努めること。故人への黙祷を捧げ、献体者と家族にも思いを馳せ、無用な雑談を慎むこと。スマートフォンなど撮影機能のある電子機器を実習室内に持ち込まない、実習室内で使用しないこと。

#### ③解剖実習室の外での行動規範

献体解剖で経験・見聞したことを、第三者に伝えることには、慎重を期する必要がある。とくに以下の点に留意すること。

i) 献体解剖が行われる解剖実習室までの通路、大学への往復の公共輸送機関など第三者がいる場所では、友人との間の雑談であっても、献体解剖の内容について語ることは慎まなくてはならない。

ii) SNSなどを使って、献体解剖の経験・見聞を発信してはいけない。

## II. 担当教員

教授	徳田信子	解剖学
准教授	上田祐司	解剖学
准教授	江原鮎香	解剖学
講師	山口剛	解剖学
講師	橋篤導	解剖学
助教	北沢祐介	解剖学
助教	沢登祥史	解剖学

非常勤講師	高橋 秀雄	解剖学
教授	入澤 篤志	内科学（消化器）
教授	志水 太郎	総合診療医学
教授	高畑 雅彦	整形外科学
室長・		
准教授	小川 覚之	先端医科学研究センター分子病態研究室
准教授	山宮 知	内科学（消化器）
准教授	原田 侑典	総合診療医学
講師	廣澤 孝信	総合診療医学
助教	勝倉 真一	総合診療医学
助教	川村 廉	総合診療医学
病院助教	大高 由美	総合診療医学
病院助教	川本 駿	総合診療医学
病院助教	坂本 哲	総合診療医学
病院助教	横瀬 允史	総合診療医学
病院助教	林 有紗	総合診療科学
病院助教	鈴木 崇文	総合診療科学
病院助教	水田 一椰	総合診療科学
非常勤講師	中館 和彦	明治薬科大学薬学教育研究センター・教授
非常勤講師	岩見 大基	自治医科大学・腎泌尿器外科学講座腎臓外科学部門・教授

### Ⅲ. 一般学習目標

プロフェッショナリズム / PR-02-03: 品格・礼儀

専門知識に基づいた問題解決能力 / PS-02: 人体各器官の正常構造と機能, 病態, 診断, 治療

人体解剖学実習では、予習を通じて構造の名称等の知識を学び、講義によりそれぞれの構造のつながりを学び、実習に臨むことでそれらを確認して定着させる。単に知識として学んだヒトのからだを、自ら手をうごかしながらの観察を通じて、さまざまな構造が系統的かつ立体的に配置されていることを理解する。さらに、系統解剖学的知識を縦糸とし、局所解剖学的知識を臓器横断的な横糸として、縦横に結びつけるという視点を得る。

学生は自ら手を動かし、その感触を確認しながら解剖することを通じて、観察の技術を身につける。また観察したものを図や言葉で表現するという説明の技法を学ぶ。4～5名でチームとして実習を行うことにより協同作業を経験する。また、互いに自分が得た所見の説明をし、議論することで、プレゼンテーションやコミュニケーションの技術を身につけることができる。人体解剖学実習では、開始時、終了時に黙とうをささげる。黙とうの際には、ヒトの生と死について考え、社会が求める医学生としての態度を取れているか考えることが求められる（医学教育モデル・コア・カリキュラム）。

### Ⅳ. 学修の到達目標

- 1) ご遺体に真摯に向き合い、献体の精神とその社会的意義を理解するとともに、他者の尊厳を重んじる人間性を備えた医師を目指す。
- 2) 解剖学実習を通して、協調性、リーダーシップ、主体的に課題を解決する姿勢を身につけ、医療チームの一員として行動できる基礎力を養う。
- 3) 人体の基本的構造とその成り立ちを理解し、個々の構造が機能とどのように結びついているかを説明できる。
- 4) 人体の構成要素を正確に剖出・同定し、相互の位置関係や立体的配置を把握したうえで、第三者にわかりやすく説

明できる。

- 5) 解剖学的知識を臨床医学と結びつけて理解し、症状・診断・治療を考える際の基盤として活用できる視点を身につける。
- 6) 組織学実習や他科目との連携学習を通して、器官の肉眼的構造と微細構造との関係を統合的に理解し、形態と機能の関連を説明できる。

V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
 6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
	4	3	金	4-6	解剖学実習オリエンテーション	全 員	2, 3, 4
1		6	月	3-6	実習 (1-4) 解剖学実習の意義, 頸部・体幹の浅層, 上肢, 体壁, 下肢	全 員	4
2		8	水	3-6	実習 (5-8) 頸部・体幹の浅層, 上肢, 体壁, 下肢	全 員	4
3		9	木	3-6	実習 (9-12) 頸部・体幹の浅層, 上肢, 下肢	全 員	4
4		13	月	3-6	実習 (13-16) 体壁, 下肢	全 員	4
5		15	水	3-6	実習 (17-20) 体壁, 下肢	全 員	4
6		17	金	3-6	実習 (21-24) 体壁, 下肢	全 員	4
7		20	月	3-6	実習 (25-28) 頸部・体幹の浅層, 体壁, 下肢	全 員	4
8		22	水	3-6	実習 (29-32) 頸部・体幹の浅層, 体壁, 下肢	全 員	4
9		24	金	3-6	実習 (33-36) 頸部・体幹の浅層, 体壁, 下肢	全 員	4
10		27	月	3-6	実習 (37-40) 頸部・体幹の浅層, 体壁, 下肢	全 員	4
11		28	火	3-6	実習 (41-44) 体壁, 胸腔	全 員	4
12		30	木	3-6	実習 (45-48) 胸腔	全 員	4
13	5	7	木	3-6	実習 (49-52) 胸腔	全 員	4
14		8	金	3-6	実習 (53-56) 胸腔	全 員	4
15		12	火	3-6	実習 (57-60) 胸腔, 下肢	全 員	4
16		14	木	3	実習 (61) 特別講義: 脊椎脊髄外科手術に必要なサージカルアナトミー	高 畑 雅 彦	1
		14	木	4-6	実習 (62-64) 腹腔	全 員	4
17		15	金	3-6	実習 (65-68) 腹腔	全 員	4
18		18	月	3	実習 (69) ご遺族の講話	ご 遺 族	1
		18	月	4-6	実習 (70-72) 腹腔	全 員	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
19	5	20	水	3-6	実習 (73-76) 上肢, 腹腔	全 員	4
20		21	木	3-6	実習 (77-80) 上肢, 腹腔	全 員	4
21		25	月	3	実習 (81) 上肢, 骨盤, 頭部	全 員	4
		25	月	4	実習 (82) 特別講義:	山 宮 知	1
		25	月	5-6	実習 (83-84) 上肢, 骨盤, 頭部	全 員	4
22		28	木	3-6	実習 (85-88) 上肢, 骨盤, 頭部	全 員	4
23		29	金	3-6	実習 (89-92) 上肢, 骨盤, 頭部	全 員	4
24	6	1	月	3-6	実習 (93-96) 下肢, 骨盤, 頭部	全 員	4
25		3	水	3	実習 (97) 特別講義: 腎移植の実際とその問題点	岩 見 大 樹	1
		3	水	4-6	実習 (98-100) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
26		4	木	3-6	実習 (101-104) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
27		8	月	3-6	実習 (105-108) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
28		10	水	3-6	実習 (109-112) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
29		11	木	3-6	実習 (113-116) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
30		15	月	3-6	実習 (117-120) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
31		17	水	3-6	実習 (121-124) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
32		18	木	2	実習 (125) 感想文	全 員	4
		18	木	3-5	実習 (126-128) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
33		22	月	1-2	解剖学実習 中間試験 (筆記)	全 員	
				3-5	実習 (129-131) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
34		24	水	3-5	実習 (132-134) 上肢, 下肢, 頭部	全 員	4
35		25	木	1-5	実習 (135-139) 総復習	全 員	4
		26	金		納棺および納棺式	全 員	4
	9	4	金	4-5	感謝状伝達式リハーサル		
		5	土		2026年度 文部科学大臣感謝状伝達式並びに献体登録者の集い		
	10	23	金	4-5	解剖学慰霊祭りリハーサル		
		24	土		2026年度 解剖学慰霊祭		

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（98%）、提出物など（2%）により、総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

様々な書籍が出版されているので、書店などで実際に手に取り、自分に合ったものを選択すること。  
下記に例示する。

- 1) 教科書：グレイ解剖学，エルゼビア
- 2) 教科書：プロメテウス解剖学 解剖学総論／運動器系，医学書院
- 3) 図 譜：プロメテウス解剖学 コア アトラス，医学書院
- 4) 図 譜：ネッター解剖学アトラス，南江堂
- 5) 実習書：解剖実習の手びき，南山堂
- 6) 実習書：解剖学実習 カラーテキスト，医学書院

VIII. 質問への対応方法

実習中、随時対応。早めに疑問点を解決して実習に臨むこと。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養，利他の精神，医師に求められる品格を身につけ，豊かな人間性を育み，他の医療者と協調して，多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び，情報・科学技術を活用して，生涯にわたって自ら問題を発見し，解決することができる	○
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と，その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し，課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み，医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

間違いや誤解が多い点を随時解説する。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（目安：20分）

医学書院eテキスト，iSmart，推薦されたテキストおよび『解剖学各論Ⅰ』の資料などの該当箇所を読み，観察すべき構造や用語をあらかじめ把握しておくこと。特に，実習で確認したい点や不明な点を事前に整理し，「どこを観察するか」「何を確かめたいか」を意識して実習に臨むことを重視する。

事後学習（目安：15分）

実習で観察した所見を振り返り，テキストや配布資料と照らし合わせながら，構造・名称・位置関係を整理すること。あわせて，観察結果が機能や臨床像とどのようにつながるかを考察し，事前に立てた疑問がどのように解決されたかを

確認することを重視する。

- XII. コアカリ記号・番号  
シラバス別冊に記載。